

2025 年度（令和 7 年度）

シラバス

柔道整復学科 昼間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	体育Ⅰ			講師名		辻井 宏昭		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	実技	学期	前期	分野		基礎分野		
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、身体の仕組みを学び、理解させる。							
到達目標	礼儀・礼節の習得と基礎運動、柔道実技での受身動作を習得する。背負投などの技をクラスメイトと共に修得することで、柔道の楽しさを理解する。							
テキスト	昇段審査のための柔道の形入門（大泉書店）							
参考文献								
評価基準	実技評価試験							
履修上の注意	出席率4／5以上							
備考	柔道着着用							

講義計画			成果確認
1	講義内容	柔道について(オリエンテーション、ビデオ鑑賞)	礼法ができる
	到達目標	礼儀礼節を理解する	
2	講義内容	基礎運動(姿勢、組み方、歩き方)	正しい姿勢組める
	到達目標	歩み足、継ぎ足ができる。	
3	講義内容	基礎運動(崩し、体さばき、受身等)	体さばきができる
	到達目標	体さばきを理解する	
4	講義内容	受身(前・後・横受身等)	横受身ができる。
	到達目標	正しい姿勢で横受身ができる。	
5	講義内容	受身(横受身、前廻り受身)と投げ技練習	前回り受身ができる。
	到達目標	前回り受身で立てる。	
6	講義内容	受身と投げ技(大腰)	右大腰の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
7	講義内容	受身と投げ技(大腰、背負い投げ)	左大腰の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
8	講義内容	受身と投げ技(背負い投げ)と投げの形(9種類)説明	右背負投の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
9	講義内容	受身と投げ技(背負い投げ、一本背負い)と投げ技の形説明	左背負投の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
10	講義内容	受身と投げ技(一本背負い右)と投の形(浮落右)	右一本背負投の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
11	講義内容	受身と投げ技(一本背負い左)と投の形(浮落左)	左一本背負投の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
12	講義内容	受身と投げ技(一本背負い、大外刈り)と投げの形(背負投)	右大外刈の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
13	講義内容	受身と投げ技(大内刈り、大外刈り)投げの形(背負投)	左大外刈の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
14	講義内容	受身と投げ技(一本背負い、大内刈り、大外刈り)と投げ技(背負投)	右大内刈の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
15	講義内容	受身と投げ技(大腰、一本背負い、大外刈り)と投の形(浮落、背負投)	左大内刈の動きができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	体育Ⅱ			講師名		辻井 宏昭		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	実技	学期	後期	分野		基礎分野		
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、身体の仕組みを学び、理解させる。							
到達目標	礼儀・礼節の習得と基礎運動、柔道実技での受身動作を習得する。背負投などの技をクラスメイトと共に修得することで、柔道の楽しさを理解する。							
テキスト	昇段審査のための柔道の形入門(大泉書店)							
参考文献								
評価基準	実技評価試験							
履修上の注意	出席率4／5以上							
備考	柔道着着用							

講義計画			成果確認
1	講義内容	基礎運動、寝技練習(袈裟固、横四方固)	寝技を理解する。
	到達目標	抑え込みができる	
2	講義内容	基礎運動、寝技練習(上四方固、縦四方固)	寝技を理解する。
	到達目標	抑え込みができる	
3	講義内容	投げ技(大腰、一本背負い)	正しい姿勢で行える
	到達目標	正しい受身ができるよう投げることができる。	
4	講義内容	投げ技(背負投、大外刈り)	正しい姿勢で行える
	到達目標	正しい受身ができるよう投げることができる。	
5	講義内容	投げ技(払腰、大内刈り)	正しい姿勢で行える
	到達目標	正しい受身ができるよう投げることができる。	
6	講義内容	連続技の説明(立ち技⇒立ち技)	スムーズに体さばきができる
	到達目標	正しい受身ができるよう投げることができる。	
7	講義内容	連続技の説明(立ち技⇒立ち技)	スムーズに体さばきができる
	到達目標	受・取の呼吸が合っている。	
8	講義内容	連続技の説明(立ち技⇒立ち技)	スムーズに体さばきができる
	到達目標	受・取の呼吸が合っている。	
9	講義内容	連続技の説明(立ち技⇒寝技)	スムーズに体さばきができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
10	講義内容	連続技の説明(立ち技⇒寝技)	スムーズに体さばきができる
	到達目標	受・取の呼吸が合っている。	
11	講義内容	約束(乱取り)稽古の方法と組みあい方	得意な技を実践できる
	到達目標	正しく投げることができ、投げられても受身が取れる。	
12	講義内容	約束(乱取り)稽古と投げの形①	得意な技を実践できる
	到達目標	正しく投げることができ、投げられても受身が取れる。	
13	講義内容	約束(乱取り)稽古の投げの形②	得意な技を実践できる
	到達目標	正しく投げることができ、投げられても受身が取れる。	
14	講義内容	投げ技の復習と投げの形	投の形を行える
	到達目標	投の形の動きが受・取で正しくできる。	
15	講義内容	総合練習(約束乱取、投の形等)	投の形を行える
	到達目標	投の形の動きが受・取で正しくできる。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	2	単位
科目名	基礎演習C			講師名		竹内 希美子		
				実務経験		○		
実務内容	クリニックにて柔道整復師として臨床							
講義形態	演習	学期	通年		分野	基礎分野		
講義目的	医療介護健康福祉関連などが実践及び研究発表されている現場を学習フィールドとして座学で学んだ理論を検証、研究する能力と、集団組織の中での自らの活躍の仕方を身に付ける							
到達目標	知的好奇心を高揚させ、研究心を身につける。チームアプローチ・チームビルディングを理解し、実践できる。							
テキスト	オリエンテーション時に配布							
参考文献								
評価基準	履修研究記録簿の作成提出 70% プレゼンテーション 10% ディスカッション 10% レポート課題 10%							
履修上の注意	授業時間以外の履修記録簿の作成研究やプレゼンテーションの予習復習の実践を前提に評価を行う							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
2	講義内容	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
3	講義内容	学習計画、発表計画の作成(個人)	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
4	講義内容	公益社団法人 大阪府柔道整復師会学術大会の聴講	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
5	講義内容	公益社団法人 大阪府柔道整復師会学術大会の聴講	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
6	講義内容	医療介護福祉健康関する講演の聴講	研修記録簿での振り返り
	到達目標	校内学術大会特別講演	
7	講義内容	卒業研究発表および学術大会運営	研修記録簿での振り返り
	到達目標	校内学術大会学生発表	
8	講義内容	他資格の職業理解と連携 医療3学科学術大会	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
9	講義内容	他資格の職業理解と連携 医療3学科学術大会	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
10	講義内容	公益社団法人 日本柔道整復師会近畿学術大会の聴講	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
11	講義内容	公益社団法人 日本柔道整復師会近畿学術大会の聴講	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
12	講義内容	他学科チームアプローチとビルディング 体育祭	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
13	講義内容	他学科チームアプローチとビルディング 体育祭	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
14	講義内容	学習計画進捗確認発表	研修記録簿での振り返り
	到達目標		
15	講義内容	市民講座や公開講座等の聴講	研修記録簿での振り返り
	到達目標		

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	応用解剖学Ⅰ			講師名		秋山文宏		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	国家試験の解剖学分野における必須事項を整理し、頻出問題の演習をおこない、1年時に学んだ解剖学を総復習していく。							
到達目標	国家試験で出題される解剖学の問題の8～9割を容易に得点できるレベルの知識や理解力に到達できる。							
テキスト	医歯薬出版株式会社 解剖学 改訂第2版							
参考文献	とくに指定しない							
評価基準	期末試験100%							
履修上の注意	授業プリントを徹底的に活用し、問題演習には積極的に取り組むことを望む							
備考	国家試験の年度別の過去問に早いうちから何度もとりくむとよい							

講義計画			成果確認
1	講義内容	循環器①心臓の解剖	授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	心臓の4つの部屋、出入りする血管、冠状動脈の名称を確認する。	
2	講義内容	循環器②大動脈	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	大動脈弓からの枝の非対称、壁側枝、臓側枝などの名称を覚える。	
3	講義内容	循環器③末梢動脈	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	腹腔動脈の枝、腸骨動脈、頸動脈名称を確認する。	
4	講義内容	循環器④静脈	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	門脈系の静脈、奇静脈、表在静脈の名称を確認する。	
5	講義内容	循環器⑤胎児循環とリンパ	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	胎児の循環と成人の循環の違いと出生後の変化を理解する。	
6	講義内容	呼吸器①肺と気管支の非対称性	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	肺葉の違い、気管支の太さや長さの違いを理解する。	
7	講義内容	呼吸器②喉頭軟骨と副鼻腔	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	4つの喉頭軟骨、4つの副鼻腔、縦隔の4つの区分を学ぶ。	
8	講義内容	腎泌尿器①腎臓のマクロ解剖	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	左右の腎臓の違い、腎葉、腎区域、腎動脈の枝を理解する。	
9	講義内容	腎泌尿器②腎臓のミクロ解剖、尿管	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	尿の生成過程である、尿細管、尿管の各部位の名称を覚える。	
10	講義内容	腎泌尿器③膀胱、男性の尿道	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	膀胱の膀胱三角の特殊性、男性の尿道の4つの部位の違いを理解する。	
11	講義内容	男性の生殖器①	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	精巣の内部構造と精子の発生過程の細胞を理解する。	
12	講義内容	男性の生殖器②	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	前立腺、尿道球腺、精嚢の分泌物の違いと陰茎の構造を理解する。	
13	講義内容	女性の生殖器①	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	子宮と子宮周囲の解剖を理解する。	
14	講義内容	女性の生殖器②	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	卵巣の内部構造、卵管の4つの部位を覚える。	
15	講義内容	女性の生殖器③	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	胎盤と女性生殖器の部位と対応する男性生殖器を覚える。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	応用解剖学Ⅱ			講師名		秋山文宏		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門基礎分野		
講義目的	国家試験の解剖学分野における必須事項を整理し、頻出問題の演習をおこない、１年時に学んだ解剖学を総復習していく。							
到達目標	国家試験で出題される解剖学の問題の８～９割を容易に得点できるレベルの知識や理解力に到達できる。							
テキスト	医歯薬出版株式会社 解剖学 改訂第２版							
参考文献	とくに指定しない							
評価基準	期末試験１００％							
履修上の注意	授業プリントを徹底的に活用し、問題演習には積極的に取り組むことを望む							
備考	国家試験の年度別の過去問に早いうちから何度もとりくむとよい							

講義計画			成果確認
1	講義内容	消化器①肝臓	授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	肝臓の左右葉、肝門、肝小葉の構造を理解する。	
2	講義内容	消化器②口腔、歯列、舌、唾液腺	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	固有口腔と口腔前庭の違い、歯の種類と数、舌の神経支配を覚える。	
3	講義内容	消化器③食道、胃、十二指腸	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	食道の３つの部位、胃の各部位、十二指腸の４つの部位の違いを理解する。	
4	講義内容	消化器④小腸、大腸	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	空腸、回腸、結腸の内部の違いを理解する。	
5	講義内容	内分泌器官	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	膵臓、甲状腺、副腎が分泌するホルモンを確認する。	
6	講義内容	神経系①脳と脊髄	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	大脳皮質の違い、脳脊髄液の流れ、３つの硬膜を覚える。	
7	講義内容	神経系②脳幹	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	視床下部、中脳、橋、延髄の違いを理解する。	
8	講義内容	神経系③脳神経	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	脳神経の働きと通る頭蓋骨の孔を覚える。	
9	講義内容	神経系④神経の伝導路	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	運動神経、感覚神経、視神経の伝導路を理解する。	
10	講義内容	感覚器①視覚器	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	眼球の３構造、網膜の構造、桿状体と錐状体の違いを理解する。	
11	講義内容	感覚器②聴覚器	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	外耳、中耳、内耳の違いと音を認識する構造と仕組みを覚える。	
12	講義内容	感覚器③嗅覚と皮膚	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	皮膚の３層構造での感覚受容器の名称と働き、皮膚腺と涙腺の構造を覚える。	
13	講義内容	神経系⑤脊髄神経〔前編〕	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	頸神経、腕神経の枝と働きを覚える。	
14	講義内容	神経系⑥脊髄神経〔後編〕	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	胸神経、腰神経叢、仙骨神経叢の枝と働きを理解する。	
15	講義内容	体表解剖	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	体表から触知できる血管、骨、筋、神経を覚える。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復術適応論			講師名		奥田 真義		
				実務経験		○		
実務内容	病院勤務(整形外科医)							
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門基礎分野		
講義目的	適切に柔道整復術を行うために柔道整復術の適応であるか否かの判断力を養う							
到達目標	柔道整復術の適否を理解し、適応外疾患についても正確に説明できる							
テキスト	医療の中の柔道整復(南江堂)							
参考文献	特になし							
評価基準	筆記試験 小テスト							
履修上の注意	毎回の授業に必ず教科書と、マーカー・筆記用具の持参をお願いします。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	柔道整復術の適否を考える	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	柔道整復術の基本的理解	
2	講義内容	損傷に類似した症状を示す疾患 内臓疾患の投影を疑う疼痛	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	全身状態から病態を理解	
3	講義内容	損傷に類似した症状を示す疾患 腰痛を伴う疾患	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	全身状態から病態を理解	
4	講義内容	損傷に類似した症状を示す疾患 化膿性の炎症、血流障害を伴う損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	全身状態から病態を理解	
5	講義内容	課題 レポート課題	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標		
6	講義内容	末梢神経損傷を伴う損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
7	講義内容	脱臼骨折 外出血を伴う損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
8	講義内容	病的骨折および脱臼	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
9	講義内容	第1回小テスト	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	設問の意味を理解	
10	講義内容	小テスト解説	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	設問の意味を理解	
11	講義内容	意識障害を伴う損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
12	講義内容	脊髄症状のある損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
13	講義内容	呼吸運動障害を伴う損傷 内臓損傷の合併が疑われる損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
14	講義内容	高エネルギー外傷 第2回小テスト	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	国家試験にそくした問題をといてもらう	
15	講義内容	小テスト解説	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	設問の意味を理解	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ			講師名		晃野 真季 竹内希美子		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	医療従事者として、医療の仕組みや国の衛生統計などを学び、衛生学公衆衛生学Ⅰで学んだ内容をより深く考え、理解する							
到達目標	医療のシステムを学び、健康や衛星環境について知識を積み、日常生活や医療現場で役立つ知識を身につける 国家試験に出題基準レベルの問題を解くことができる							
テキスト	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版(南江堂)							
参考文献	わが国の人口動態(厚生労働省大臣官房統計情報部)							
評価基準	筆記試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	健康の定義、衛生統計	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
2	講義内容	疾病予防と健康管理	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
3	講義内容	感染症の予防	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
4	講義内容	消毒法	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
5	講義内容	環境衛生	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
6	講義内容	生活環境・食品衛生活動	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
7	講義内容	母子保健	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
8	講義内容	学校保健	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
9	講義内容	産業保健	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
10	講義内容	成人・高齢者保健	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
11	講義内容	精神保健	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
12	講義内容	地域保健と国際保健	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
13	講義内容	衛生行政と保険医療制度	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
14	講義内容	医療倫理と安全確保	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	
15	講義内容	疫学	復習問題の解答・解説
	到達目標	国家試験レベルの問題を解くことができる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位(15時間)
科目名	職業倫理1			講師名	田中雅博	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	患者安全、医療安全を徹底すると同時に、患者の人権を保護し、医療倫理を徹底する意識と自覚を持つことを目的にする。また柔道整復師の業務における療養費の構造を理解し、マイナンバーカードによる保険証に代替される場面を予想し、その処理や経過を理解できる。医師との連携や多職種連携、地域包括ケアシステムの理解、将来の実践を目指す。					
到達目標	患者安全、医療安全に対する意識が定着し、医療倫理を意識した患者への行動などがとれる。柔道整復療養費における、患者、保険者、施術者の流れが理解でき、マイナンバーカード保険証導入の意義も理解できる。医師との連携、他職種連携、地域包括ケアシステムへの理解と実践ができる。					
テキスト	学校協会、職業倫理					
参考文献	公益社団法人日本柔道整復師会白書と療養費の手引き					
評価基準	単位認定試験と中間評価3回の試験で行う。単位認定試験が60点未満の者については、中間評価試験の点数で、60点以上であれば、60点とする。					
履修上の注意	テキスト以外にレジュメを配信するので、レジュメを熟読することを勧めたい。					
備考	我が国が直面している、社会保障制度は、一答で解決する事は困難であるが、当講義と研究を通じて、アイデアと提案で解決策を探してほしい。					

講義計画			成果確認
1	講義内容	患者の人権擁護、医師とのかかわり、医療介護等他職種連携の推進	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	医療面接や医師連携、医療介護多職種連携が想定できる	
2	講義内容	柔道整復療養費の歴史と経過	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	柔道整復師の療養費の経過が説明できる	
3	講義内容	医療費と柔道整復療養費の推移と分析	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	医療費と療養費の推移を研究し、分析、説明ができる。	
4	講義内容	療養費の算定と手続き、療養費の対象患者、医師からの依頼	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	療養費の請求手続きや課題、対象患者の制限が理解できる	
5	講義内容	対象外疾患の扱いと医師との連携、問題行動を起こす患者の事例研究	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	対象となる傷病の扱い制限を知る。問題行動をとる患者への対応が想定できる。	
6	講義内容	施術録の記載と支給申請書作成(演習)	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	施術録と支給申請書の形式を知り、請求手続きが行える	
7	講義内容	交通事故や労災患者の対応と医師との連携	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	交通事故患者の留意すべき点が理解できている	
8	講義内容	保険者からの調査と該当患者への対応、支給申請書返戻の対応	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	保険者が行う、療養費適正化調査の意味を知る。その対策が講じられる。	
9	講義内容		
	到達目標		
10	講義内容		
	到達目標		
11	講義内容		
	到達目標		
12	講義内容		
	到達目標		
13	講義内容		
	到達目標		
14	講義内容		
	到達目標		
15	講義内容		
	到達目標		

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	職業倫理Ⅱ			講師名		田中雅博		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門基礎分野		
講義目的	医療を特別な産業ととらえ、リスクマネジメントのミスによって生じる被害が患者、利用者に及ぶことを考える。医療安全、患者安全に全力で対処し、また全力をもって医療事故防止に努め、患者ハラスメントや人権軽視の意識を高く持つことを目的にする							
到達目標	患者安全、医療安全に対して、具体的な行動の想定ができる。超音波エコー観察を通じて体内の状態を把握し、医師法、保健師助産師看護師法を理解したうえで、柔道整復師の業務範囲内で、鑑別判断として患者に説明ができる。							
テキスト	学校協会、職業倫理							
参考文献	公益社団法人日本柔道整復師会白書と療養費の手引き							
評価基準	単位認定試験と中間評価3回の試験で行う。単位認定試験が60点未満の者については、中間評価試験の点数で、60点以上であれば、60点とする。							
履修上の注意	テキスト以外にレジュメを配信するので、レジュメを熟読することを勧めたい。							
備考	我が国が直面している、社会保障制度は、一答で解決する事は困難であるが、当講義と研究を通じて、アイデアと提案で解決策を探ってほしい。							

講義計画			成果確認
1	講義内容	職業倫理の実践と課題	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	医療安全患者安全が理解できている	
2	講義内容	医接連携と多職種連携	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	患者を取り巻く医療チームの役割と行動が理解できている	
3	講義内容	守秘義務遵守と個人情報取り扱い	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	傷病状態と患者情報の守秘義務が理解できている	
4	講義内容	柔道整復療養費の協定と契約関係、自費施術の課題	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	療養費協定の歴史と契約関係の発生、自費施術の課題と展望が想定できる	
5	講義内容	広告制限と集患行動	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	接骨院の安定経営と集患について、必要な広告と制限が理解できている	
6	講義内容	患者の人権擁護とハラスメントの防止	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	情報、能力、知識格差から生じる強権的態度とハラスメントを知る	
7	講義内容	超音波エコー観察検査が生じる問題点	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	超音波エコー観察検査の使い方、患者対応が理解できる	
8	講義内容	骨折、脱臼の医師同意のあり方	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	医師への骨折脱臼の同意への対診方法と対応が理解できている	
9	講義内容	柔道整復師の社会的評価と取るべき態度、対応	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	医師とのかかわり方、連携、鑑別や施術に制限がある事を知る	
10	講義内容	柔道整復師を基礎資格にした様々な資格での業務	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	運動器リハビリテーションセラピストや機能訓練指導員の職務を知る	
11	講義内容	柔道整復師トレーナーの業務とあるべき姿	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	アスリートの応急処置と重症化予防への活躍を知る	
12	講義内容	柔道整復師が行う自費施術移行への課題と展望	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	療養費を取り扱わない柔道整復師の現状と業界全体の課題をしる	
13	講義内容	接骨院と併設する通所介護事業所の連携、関り	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	療養費取り扱い規定と介護保険制度概要と通所介護の概要を知る	
14	講義内容	外国人患者(インバウンド、在日外国人など)の対応と費用の手続き	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	在留資格を確認し、通訳機器などを介したコミュニケーション手法が理解できる	
15	講義内容	自然災害時や異常気象における柔道整復師の活躍	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	電気水道、交通インフラが破壊されている状況での柔道整復師の活躍が想像できる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	関係法規Ⅰ			講師名		田中雅博		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期		分野	専門基礎分野		
講義目的	柔道整復師法及び関係法規、法令を理解するとともに、現時点での免許交付の欠格事由や免許取得後の臨地臨床現場において、法規法令を遵守するのは無論、患者利用者の医療安全患者安全に配慮し、リスクマネジメントを徹底する。また基本的人権を主とした患者の人権を擁護し、医療サービス提供者としての医療倫理を徹底し、加えて医療介護等の多職種連携を推進する事をねらう。							
到達目標	関係法規法令の遵守が理解でき、医療安全患者安全に配慮した医療サービスの提供の観念が形成される。また患者人権擁護やリスクマネジメント、多職種連携の目的、実践が説明できる。							
テキスト	学校協会関係法規							
参考文献	厚労省老健局資料、京都大学大学院SDM資料、兵庫県立大学大学院ヘルスケアマネジメント資料、他							
評価基準	単位認定試験の結果を基に、中間評価試験3回の得点を考慮する。(単位認定試験が60点未満の場合、中間試験が60点以上の場合は、優先して採用する。以上を考慮しても、60点未満の場合は、演習の研究発表の評価と質疑応答等の授業貢献度において、加点考慮する							
履修上の注意	テキストに記載のない、法律概論、関係法規法令、医療過誤、医療訴訟などの判例、介護保険法などをレジュメで配布し、講義するので、テキストと合わせて、履修願いたい。							
備考	13回目からの授業は、毎回30問ほどの問題例を解き、その解答と解説を主に実践形式で授業を進めるので、やむをえない欠席以外は控えることが肝要である							

講義計画			成果確認
1	講義内容	授業計画と評価説明、柔道整復師が関わる患者との対応事例 ケーススタディーとして紹介	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	自身の事として患者対応事例が理解できる	
2	講義内容	国際比較法律概論、法の制定と目的、社会秩序の維持	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	国際文化、道徳から法制定、社会秩序が理解できる	
3	講義内容	法と社会、法源と法の形式、民主主義と社会主義の相違	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	国家による法律制定の相違を理解できる	
4	講義内容	日本国憲法制定の経過、制定の概説、3大原則	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	憲法制定の経過と3大原則が理解できる	
5	講義内容	基本的人権と患者の権利、医療倫理、患者対応と医療提供者の配慮	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	患者の人権を理解できる。医療安全患者安全の観念形成	
6	講義内容	さまざまな医療ミスと事故による、医療訴訟の研究発表(演習)	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	医療者側の言動行動による人権侵害、リスクマネジメントの理解	
7	講義内容	憲法第25条、生存権と生活保護	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	生存権と生命、生活維持の関係が理解できる	
8	講義内容	罪刑法定主義、裁判用語、医療倫理	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	先進国の裁判の形式、裁判員、人権配慮が理解できる	
9	講義内容	リスクマネジメント、ヒューマンエラー、ケアレスミス、インシデント、アクシデント、インシデントリポート、アクシデントリポート、大事故を防ぐ、事故やミスを減らす、情報共有の重要性	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	職場環境、従業員満足度、企業風土などが影響する事がわかる	
10	講義内容	契約と取引による商習慣と行為、責任	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	請負契約と委任契約が理解できる	
11	講義内容	テキスト重要箇所、解説、説明①	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	テキストにある重要箇所、押さえておくべきポイントの理解	
12	講義内容	テキストの需要箇所、押さえておくべきポイントの解説、説明②	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	テキストにある重要箇所、押さえておくべきポイントの理解	
13	講義内容	関係法規法令の実践問題から見る分析研究、ターゲットドリル430問配布の重要箇所解説	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	重要事例問題が正答できる	
14	講義内容	関係法規法令の実践問題から見る分析研究、25問の解答解説	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	重要事例問題が正答できる	
15	講義内容	関係法規法令の実践問題から見る分析研究、50問の解答解説、終講の総括	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	重要事例問題が正答できる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	関係法規Ⅱ			講師名		田中 雅博		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門基礎分野		
講義目的	実際に開業するシーンを想定し、開業までの周辺法規の整理、開業に関わる柔道整復師法上の法規を確認するとともに、その運営や上の課題、問題点などを理解しておく。 柔道整復師を基礎視覚にする、運動器リハビリテーションセラピストや機能訓練指導員などの業務、法規を理解する							
到達目標	開業準備から開業、実際の運営を仮想する、医療介護の領域で活動する際の関係法規を理解しておく。							
テキスト	全国柔道整復学校協会監修 関係法規2024年度 / 柔道整復師と機能訓練指導							
参考文献	医療六法(中央法規出版)、介護支援専門員実務研修テキスト ほか							
評価基準	演習ディスカッション25%、演習発表準備25%、プレゼン25%、授業貢献度25%							
履修上の注意	授業以外にグループで小規模演習開催の努力を期待する							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	類似した名称で事業を行う業種についての課題と問題点	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	課題と問題点を理解する	
2	講義内容	接骨院を開業するまでの規則上の手続き、法令順守の重要性、演習	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	開業を想定した、各種手続き、法令を理解する	
3	講義内容	解説者と管理柔道整復師が同一でないケースの課題と運営上の問題点、トラブルケース	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	ケーススタディを元に課題、問題点を理解する	
4	講義内容	社会保障制度と社会秩序、相互扶助の意味、現在の社会保障制度の課題、問題点①	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	社会保障制度を理解する	
5	講義内容	社会保障制度と社会秩序、相互扶助の意味、現在の社会保障制度の課題、問題点②	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	社会保障制度を理解する	
6	講義内容	国民皆保険制度の歴史、健康保険 各種保険扱いの権利と意義、演習	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	健康保険の種類、制度を理解する	
7	講義内容	柔道整復療養費、受療委任払い制度の歴史と請求権解放	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	療養費、受療委任払いについて理解する	
8	講義内容	公的社団法人以外の柔道整復師療養費請求団体の存在と活動 代理利益事業	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	請求団体の活動、利用方法を理解する	
9	講義内容	医師と柔道整復師の連携、骨折脱臼の同意について	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	医接連携について理解する	
10	講義内容	今後の社会保障制度の存続、柔道整復師が法規則の中で行える活動について、演習	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	グループディスカッションの中で、活動について考える	
11	講義内容	介護保険制度の中で行える柔道整復師の活動	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	介護保険制度の内容を理解する	
12	講義内容	介護支援専門員としての柔道整復師	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	介護支援専門院の活動について理解する	
13	講義内容	運動器リハビリテーションセラピスト資格を取得した柔道整復師の活動、関係法令	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	運動器リハビリテーションセラピストとしての働き方を理解する	
14	講義内容	通所介護施設開設に関わる介護保険法の法令と基準	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	開設に関わる法令と基準を理解する	
15	講義内容	接骨院と通所介護事業所を併設する場合の法令遵守、関係法規の確認	授業終了5分前に本日の重要項目の確認とオフィスワーカーの活用説明
	到達目標	開設に関わる法令と基準を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位(15時間)
科目名	社会保障制度論			講師名		田中雅博		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門基礎分野		
講義目的	G7を始めとする先進国と我が国の社会保障制度を比較検証し、その発祥、あり方を履修すると同時に、今後我が国の社会保障制度の課題と展望を研究し、その解決策と新たな提案を考える。社会保障の核となる、年金、医療、介護の現状を知り、それぞれが今後とるべき対策、課題解決に向けて多方面から履修を行う。							
到達目標	先進国の社会保障の現状と、我が国が直面する課題の分析が行える。少子高齢社会がもたらす社会保障と税の一体改革を理解でき、今後我が国がとるべき対策を提案する事ができる。							
テキスト	学校協会、社会保障制度論							
参考文献	兵庫県立大学大学院ヘルスケアマネジメント資料、厚生労働省社会保障制度資料、他							
評価基準	単位認定試験と中間評価3回の試験で行う。単位認定試験が60点未満の者については、中間評価試験の点数で、60点以上であれば、60点とする。							
履修上の注意	テキスト以外にレジュメを配信するので、レジュメを熟読することを勧めたい。							
備考	我が国が直面している、社会保障制度は、一答で解決する事は困難であるが、当講義と研究を通じて、アイデアと提案で解決策を探ってほしい。							

講義計画			成果確認
1	講義内容	社会保障の概論と全体構造	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	我が国の社会保障の発祥と歴史を理解できる。	
2	講義内容	直面する我が国の課題と年金制度改革	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	少子高齢社会がもたらす社会の到来が予測できる	
3	講義内容	介護保険制度の導入と意義、仕組、課題と問題点	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	介護現場の人材不足と健康寿命の意義がわかる	
4	講義内容	社会福祉、生活扶助、公衆衛生の意義	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	憲法25条と生命、生活の保障の関りが理解できる	
5	講義内容	医療保険制度概論と国民皆保険制度の課題 マイナンバーカードの今後の発展	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	我が国の医療保険制度の課題の解決に向けて理解できる	
6	講義内容	国民医療費の推移と現状、これからの課題	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	医療費介護費削減の一提案ができる。	
7	講義内容	医療保険財政の現状と課題	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	後期高齢者保険医療制度の展望と課題解決策が提案できる	
8	講義内容	社会保障制度の存続について、ケーススタディー	授業終了5分前に、本日重要項目の確認とオフィスアワーの活用説明
	到達目標	未来への存続提案が一つはできる	
9	講義内容		
	到達目標		
10	講義内容		
	到達目標		
11	講義内容		
	到達目標		
12	講義内容		
	到達目標		
13	講義内容		
	到達目標		
14	講義内容		
	到達目標		
15	講義内容		
	到達目標		

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復診察学Ⅰ＜基礎＞			講師名		中西 正		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	柔道整復師に必要な診察技術である、問診、視診、触診、各種検査法や医療面接方法を学び、技術を習得する。							
到達目標	施術の流れを理解し、臨床の現場においても実践できる知識。技術を身につける。							
テキスト	柔道整復学 理論編・実技編（南江堂）、一般臨床医学 改訂第3版（医歯薬出版株式会社）							
参考文献								
評価基準	筆記試験							
履修上の注意	常に実際の患者を目の前にしていることを意識し、真摯に取り組むこと							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	施術(診察)の流れ	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	診察の意義や進め方、流れを理解する。	
2	講義内容	身体評価の流れ	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	身体評価の際の方法や流れ、種類を理解する。	
3	講義内容	患者の姿勢、歩行、全身状態の観察	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	姿勢や歩行、全身状態の異常と正常を理解する。	
4	講義内容	問診	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	問診の意義や進め方、方法を理解する。	
5	講義内容	患部の観察	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	患部の状態を把握するための観察方法を理解する。	
6	講義内容	触診	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	触診の意義や方法、鑑別方法を理解する。	
7	講義内容	機能的診察	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	機能的診察の意義や方法、流れを理解する。	
8	講義内容	説明と同意	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	患者への説明方法と同意の取り方について理解する。	
9	講義内容	整復・固定状態の確認	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	整復・固定状態の確認方法について理解する。	
10	講義内容	医科との連携	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	病院との連携の仕方について理解する。	
11	講義内容	ケーススタディ(肩部)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	肩部の症例の診察方法について理解する。	
12	講義内容	ケーススタディ(肘部)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	肘部の症例の診察方法について理解する。	
13	講義内容	ケーススタディ(膝部)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	膝部の症例の診察方法について理解する。	
14	講義内容	ケーススタディ(足部)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	足部の症例の診察方法について理解する。	
15	講義内容	総復習まとめ	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	評価試験に向けて理解を深める。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復診察学Ⅱ＜高等＞			講師名		中西 正		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	柔道整復師の業務において必要な診察技術を身につける。画像診断等、より臨床に則した診察技術を学ぶことを目的とする。							
到達目標	診察において必要な各項目の知識・技術、特に画像の読影を習得する。							
テキスト	毎時限、配布されるプリント							
参考文献	一般臨床医学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)							
評価基準	筆記試験、授業貢献度							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	診察概論	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	診察の意義や方法、流れについて理解する。	
2	講義内容	医療面接(実際のケースを想定して)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	実際のケースを想定した医療面接を理解し、身に付ける。	
3	講義内容	問診実技(実際のケースを想定して)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	実際のケースを想定した問診方法を理解し、身に付ける。	
4	講義内容	視診 視診の意義、体格、体型、体位・姿勢	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	視診の意義や方法、変化を理解し身に付ける。	
5	講義内容	栄養状態、精神状態、異常運動	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	栄養状態、精神状態、異常運動の種類や内容を理解する。	
6	講義内容	歩行の観察	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	正常歩行と異常歩行の種類と観察方法を理解する。	
7	講義内容	皮膚の状態、頭部・顔面・頸部・胸部	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	皮膚の状態、頭部・顔面・頸部・胸部の鑑別方法を理解する。	
8	講義内容	画像診断概論	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	画像診断の方法、種類について理解する。	
9	講義内容	レントゲン概論	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	レントゲンの見かたや症例について理解する。	
10	講義内容	レントゲン(ケーススタディ)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	実際の症例を想定しながらレントゲンの理解を深める。	
11	講義内容	MRI概論	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	MRIの見かたや症例について理解する。	
12	講義内容	MRI(ケーススタディ)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	実際の症例を想定しながらMRIの理解を深める。	
13	講義内容	エコー概論	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	エコーの見かたや症例について理解する。	
14	講義内容	エコー(ケーススタディ)	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	実際の症例を想定しながらエコーの理解を深める。	
15	講義内容	総復習	毎回の授業の中でランダムに質問を行い答えさせる。
	到達目標	評価試験に向けて復習し理解を深める。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅵ			講師名		奥田真義		
				実務経験		○		
実務内容	病院勤務(整形外科医)							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	柔道整復術の適応で得た知識をもとに臨床所見から適切な診断を行い、柔道整復師として施術可能であるか否かを判断する能力を身に着ける。また、より安全に柔道整復術を提供するため、医用画像を理解する。							
到達目標	1. 柔道整復術で対応できる疾患とできない疾患の判断ができる。 2. あらゆる医用画像の基本的な理解							
テキスト	施術の適応と医用画像の理解(南江堂)							
参考文献	特になし							
評価基準	筆記試験80% 小テスト10% 出席率10%							
履修上の注意	毎回の授業に必ず教科書と、マーカー・筆記用具の持参をお願いします。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	柔道整復術の適否を考える	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	柔道整復術の基本的理解	
2	講義内容	損傷に類似した症状を示す疾患①	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	全身状態から病態の理解	
3	講義内容	損傷に類似した症状を示す疾患②	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	全身状態から病態の理解	
4	講義内容	血流障害を伴う損傷・末梢神経を伴う損傷・脱臼骨折・外出血を伴う損傷 小テスト	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	柔道整復に関連する疾患の理解	
5	講義内容	小テスト解説	点数評価および設問回答
	到達目標	設問の意味を理解	
6	講義内容	病的骨折および脱臼・意識障害を伴う損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
7	講義内容	脊髄症状のある損傷・内臓損傷の合併が疑われる損傷	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
8	講義内容	呼吸運動障害を伴う損傷 小テスト	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	現場で遭遇する緊急疾患の理解	
9	講義内容	小テスト解説	点数評価および設問回答
	到達目標	設問の意味を理解	
10	講義内容	医用画像の理解① 医療被曝と検査機器	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	医療機関で使用する医療機器についての理解	
11	講義内容	医用画像の理解②上肢の画像解剖	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	上肢の画像の理解	
12	講義内容	医用画像の理解③下肢の画像解剖	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	下肢の画像の理解	
13	講義内容	医用画像の理解④脊柱の画像解剖(前半)	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	脊椎の画像の理解	
14	講義内容	医用画像の理解④脊柱の画像解剖(後半) 小テスト	穴あきに記入してもらい 順に解答してもらう
	到達目標	国家試験に即した試験を回答してもらう	
15	講義内容	小テスト解説	点数評価および設問回答
	到達目標	設問の意味を理解	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅶ			講師名		立山 直		
				実務経験		○		
実務内容	病院勤務(放射線技師)							
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	柔道整復師の施術を求めて訪れる患者には、非外傷性の疾患も含まれている。これらを適切に除外するだけでなく、外傷でも柔道整復術では対応しきれないものを除外しなければならない。本科目の目的は柔道整復術の適応で得た知識を活用し臨床所見から判断して施術に適応する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身に着け、また、安全に柔道整復術を提供するため、医用画像をりかいすることである。							
到達目標	1、柔道整復術で対応できる疾患およびできない疾患を判断することができる 2、レントゲン、CT、MRI、超音波画像措置の正常像が理解できる。 3、超音波画像措置における基本的な操作法を実施できる。							
テキスト	施術の適応と医用画像の理解／南江堂							
参考文献	特になし							
評価基準	評価試験60%、確認テスト40%							
履修上の注意	積極的に講義に参加することで理解が深まります。講義に関する発言や質問等はどんどん参加してください。ただし、携帯電話の操作や、私語など他の学生の迷惑になる行為は禁止します。携帯電話は机上にださないこと。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	上肢の画像解剖①	課題提出や確認テスト
	到達目標	正常像を理解する	
2	講義内容	上肢の画像解剖②	課題提出や確認テスト
	到達目標	正常像を理解する	
3	講義内容	下肢の画像解剖①	課題提出や確認テスト
	到達目標	正常像を理解する	
4	講義内容	下肢の画像解剖②	課題提出や確認テスト
	到達目標	正常像を理解する	
5	講義内容	脊柱の画像解剖①	課題提出や確認テスト
	到達目標	正常像を理解する	
6	講義内容	脊柱の画像解剖②	課題提出や確認テスト
	到達目標	正常像を理解する	
7	講義内容	第1回～第6回まとめ／確認テスト	課題提出や確認テスト
	到達目標	問題の意味を理解する	
8	講義内容	超音波画像診断装置の基本的操作	課題提出や確認テスト
	到達目標	基本的な操作方法を理解し、実践できる	
9	講義内容	超音波画像診断装置による上肢の抽出方法①	課題提出や確認テスト
	到達目標	見本と同様の画像が抽出できる	
10	講義内容	超音波画像診断装置による上肢の抽出方法②	課題提出や確認テスト
	到達目標	見本と同様の画像が抽出できる	
11	講義内容	超音波画像診断装置による上肢の抽出方法③	課題提出や確認テスト
	到達目標	見本と同様の画像が抽出できる	
12	講義内容	超音波画像診断装置による下肢の抽出方法①	課題提出や確認テスト
	到達目標	見本と同様の画像が抽出できる	
13	講義内容	超音波画像診断装置による下肢の抽出方法②	課題提出や確認テスト
	到達目標	見本と同様の画像が抽出できる	
14	講義内容	超音波画像診断装置による下肢の抽出方法③	課題提出や確認テスト
	到達目標	見本と同様の画像が抽出できる	
15	講義内容	第1回～第14回まとめ	課題提出や確認テスト
	到達目標	指定された部位の画像が抽出できる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅷ			講師名		青木 孝至		
				実務経験		○		
実務内容	鍼灸院にて柔道整復師、鍼灸師として臨床							
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	柔道整復の業務範囲よ鑑別診断が必要な疾患の病態、症状を理解し、適切な判断および処置ができる							
到達目標	柔道整復領域と鑑別が必要な内科・外科領域の知識を習得し、柔道整復領域に活かす							
テキスト	一般臨床医学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社) 外科学概論 改訂第4版(南江堂) 柔道整復理論編 改訂第7版(南江堂)							
参考文献	配布プリント							
評価基準	評価試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	神経疾患(総論)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
2	講義内容	神経疾患(脳血管疾患)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
3	講義内容	神経疾患 腫瘍性疾患、感染性疾患、機能性疾患	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
4	講義内容	神経疾患 神経変性疾患、炎症性疾患、神経免疫疾患	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
5	講義内容	神経疾患 筋疾患、まとめ	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
6	講義内容	循環器疾患 うっ血性心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
7	講義内容	循環器疾患 先天性心疾患、高血圧症、動脈疾患、末梢動脈疾患、不整脈	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
8	講義内容	膠原病(総論)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
9	講義内容	リウマチ	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
10	講義内容	全身性エリテマトーデス	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
11	講義内容	強皮症、多発性筋炎、シェーグレン症候群	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
12	講義内容	ベーチェット病、結節性多発性動脈炎、リウマチ性多発筋痛症	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
13	講義内容	熱中症	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
14	講義内容	腎不全、糸球体疾患	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
15	講義内容	尿路感染症	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅸ			講師名		榎木 英介		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野		専門分野	
講義目的	柔道整復の業務範囲と鑑別診断が必要な疾患の病態、症状を理解し、適切な判断および処置ができる							
到達目標	柔道整復領域と鑑別が必要な内科・外科領域の知識を習得し、柔道整復領域に活かす							
テキスト	一般臨床医学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社) 外科学概論 改訂第4版(南江堂) 柔道整復理論編 改訂第7版(南江堂)							
参考文献	配布プリント							
評価基準	評価試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	代謝疾患(糖尿病)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
2	講義内容	代謝疾患(肥満症)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
3	講義内容	代謝疾患(メタボリックシンドローム)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
4	講義内容	代謝疾患(痛風)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
5	講義内容	内分泌疾患(総論)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
6	講義内容	内分泌疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
7	講義内容	内分泌疾患(副甲状腺疾患、副腎皮質疾患)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
8	講義内容	内分泌疾患(褐色細胞腫、性腺疾患)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
9	講義内容	呼吸器疾患(気管支炎、肺炎)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
10	講義内容	呼吸器疾患(肺結核、COPD)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
11	講義内容	呼吸器疾患(肺がん)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
12	講義内容	感染症(総論)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
13	講義内容	感染症(整形外科的感染症)	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
14	講義内容	関節痛	確認練習問題を実施
	到達目標	疾患の基礎的知識と鑑別、類似症状を理解する	
15	講義内容	まとめ	確認練習問題を実施
	到達目標	第1回～14回までのまとめ問題を解く	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅰ			講師名		田中 雅博 橋本 輝幸		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	健康の保持増進、および障害のある患者に対するアプローチに係る知識の深化を図る							
到達目標	基礎医学および運動療法等の知識を深め、コ・メディカルとして障害者の医療・福祉に貢献することができる							
テキスト	リハビリテーション医学 改定第4版 全国柔道整復学校協会／南江堂							
参考文献	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版 栢森 良二 著／医歯薬出版 入門運動生理学 第4版 勝田 茂 編著／杏林書院							
評価基準	定期試験 90% 授業貢献度等 10%							
履修上の注意	授業時に配付される資料と教科書を毎授業時持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	リハビリテーション(機能訓練)の実際 ①	授業中の巡回により、各学生の習熟度を随時確認する
	到達目標	主として骨格筋の緊張緩和を図る手技を習得する	
2	講義内容	リハビリテーション(機能訓練)の実際 ②	授業中の巡回により、各学生の習熟度を随時確認する
	到達目標	頸部・肩背部筋の緊張緩和を図る手技を習得する	
3	講義内容	リハビリテーション(機能訓練)の実際 ③	授業中の巡回により、各学生の習熟度を随時確認する
	到達目標	上肢筋の緊張緩和を図る手技を習得する	
4	講義内容	リハビリテーション(機能訓練)の実際 ④	授業中の巡回により、各学生の習熟度を随時確認する
	到達目標	下肢筋の緊張緩和を図る手技を習得する	
5	講義内容	コ・メディカルとしての知識の深化 ① 東洋医学概論	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	東洋医学の概略を理解する	
6	講義内容	コ・メディカルとしての知識の深化 ② 障害者に係る法的環境の概略	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	障害者差別解消法等障害者の法的環境の概略を理解する	
7	講義内容	コ・メディカルとしての知識の深化 ③ 運動生理学	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	骨格筋線維・運動と筋の変化等について理解する	
8	講義内容	コ・メディカルとしての知識の深化 ④ 運動生理学	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	筋収縮と神経、筋収縮様式と筋力等について理解する	
9	講義内容	コ・メディカルとしての知識の深化 ⑤ 運動生理学	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	運動と酸素摂取・運動強度等について理解する	
10	講義内容	コ・メディカルとしての知識の深化 ⑥ 運動生理学	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	栄養と肥満・運動処方の概要等について理解する	
11	講義内容	コ・メディカルとしての知識の深化 ⑦ 運動生理学	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	運動処方と生活習慣病等について理解する	
12	講義内容	リハビリテーション医学 ① リハビリテーションの理念	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	障害者の実態および階層とアプローチについて理解する	
13	講義内容	リハビリテーション医学 ② 評価学 1	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	運動学・身体所見・小児運動発達等について理解する	
14	講義内容	リハビリテーション医学 ③ 評価学 2	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	ADL・心理的評価・認知症の評価等について理解する	
15	講義内容	リハビリテーション医学 ④ 評価学 3	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	電気生理学的検査・画像診断・運動失調等を理解尾する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅱ			講師名		青木 孝至		
				実務経験		○		
実務内容	鍼灸院にて柔道整復師、鍼灸師として臨床							
講義形態	演習	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	各関節の解剖を深く理解し、筋や靱帯による運動制御や運動療法を学ぶ							
到達目標	人体の構造を深く理解し、運動療法を安全に実践することができる							
テキスト	授業毎にプリントを配布							
参考文献	解剖からアプローチするからだの機能と運動療法(上肢・体幹)MEDICALVIEW							
評価基準	評価試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	解剖学の応用と運動療法① 肩関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
2	講義内容	解剖学の応用と運動療法② 肩関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
3	講義内容	解剖学の応用と運動療法③ 肩関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
4	講義内容	解剖学の応用と運動療法④ 肘関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
5	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑤ 肘関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
6	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑥ 肘関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
7	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑦ 手関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
8	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑧ 手関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
9	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑨ 手関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
10	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑩ 指節関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
11	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑪ 指節関節	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
12	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑫ 体幹	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
13	講義内容	解剖学の応用と運動療法⑬ 体幹	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	筋の走行を理解し、段階別の運動療法が行える	
14	講義内容	復習	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	13回までの内容の練習に励む	
15	講義内容	復習	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	13回までの内容の練習に励む	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅲ			講師名		田中 雅博 橋本 輝幸		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	障害のある患者に対するアプローチに係る知識の深化を図る							
到達目標	基礎医学および運動療法等の知識を深め、コ・メディカルとして障害者の医療・福祉に貢献することができる							
テキスト	リハビリテーション医学 改定第4版 全国柔道整復学校協会／南江堂							
参考文献	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版 栢森 良二 著／医歯薬出版							
評価基準	定期試験 90% 授業貢献度等 10%							
履修上の注意	授業時に配付される資料と教科書を毎授業時持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーション障害学と治療学 ①	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	障害学等について理解する	
2	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーション障害学と治療学 ②	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	治療学等について理解する	
3	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーション医学の関連職種	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	理学療法士・作業療法士・言語療法士等について理解する	
4	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーション医学の関連職種の治療技術の理解	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	リハビリテーション医学の関連職種の治療技術について理解する	
5	講義内容	リハビリテーション医学 高齢者のリハビリテーション	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	高齢者のリハビリテーションの概略について理解する	
6	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーションの実際 ①	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	脳血管疾患・脊髄損傷等のリハビリについて理解する	
7	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーションの実際 ②	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	骨折・骨粗鬆症等のリハビリについて理解する	
8	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーションの実際 ③	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	頸腕症候群・腰痛症等のリハビリについて理解する	
9	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーションの実際 ④	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	肋骨骨折・アキレス腱断裂等のリハビリについて理解する	
10	講義内容	リハビリテーション医学 リハビリテーション福祉と障害者スポーツ	授業中の学生へのランダムな質問により、学生の理解度を確認する
	到達目標	リハビリテーション福祉と障害者スポーツの概略を理解する	
11	講義内容	リハビリテーション医学 国家試験対策(過去問題演習と解説)①	国家試験過去問題の演習を通して、学生の到達度を確認する
	到達目標	リハビリテーションの理念・障害者の実態等の領域	
12	講義内容	リハビリテーション医学 国家試験対策(過去問題演習と解説)②	国家試験過去問題の演習を通して、学生の到達度を確認する
	到達目標	リハビリテーション評価学・障害学と治療学等の領域	
13	講義内容	リハビリテーション医学 国家試験対策(過去問題演習と解説)③	国家試験過去問題の演習を通して、学生の到達度を確認する
	到達目標	リハビリテーション医学関連職種と治療技術等の領域	
14	講義内容	リハビリテーション医学 国家試験対策(過去問題演習と解説)④	国家試験過去問題の演習を通して、学生の到達度を確認する
	到達目標	高齢者のリハビリテーション等の領域	
15	講義内容	リハビリテーション医学 国家試験対策(過去問題演習と解説)⑤	国家試験過去問題の演習を通して、学生の到達度を確認する
	到達目標	脳血管疾患・脊髄損傷等領域のリハビリテーションの実際	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅴ			講師名		竹内希美子 他		
				実務経験		○		
実務内容	クリニックにて柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	担当教員の指導のもと、応用柔道整復概論Ⅳで決めたテーマおよびスケジュールをもとに卒業論文を作成し、発表する。							
到達目標	卒業論文を書き上げ、学術大会の運営及び発表を行う。							
テキスト								
参考文献								
評価基準	卒業論文提出および発表での評価							
履修上の注意	期限内の提出厳守							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
2	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
3	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
4	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
5	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
6	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
7	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
8	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
9	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
10	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
11	講義内容	論文の作成	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スケジュールに沿って書き進めている	
12	講義内容	学術大会運営準備	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	下級生と協力し運営準備が進められる	
13	講義内容	学術大会運営準備	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	下級生と協力し運営準備が進められる	
14	講義内容	発表指導	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	スライド・発表原稿が作成できる	
15	講義内容	論文発表	各ゼミ担当教員とのフィードバック
	到達目標	人前で自信をもって研究発表が行える	

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	3 年	単位数	1 単位
科目名	包帯固定学Ⅲ		講師名	辻井 宏昭	
実務内容			実務経験		
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	巻軸包帯・伸縮包帯やテーピングなどの固定材料を用いて、臨床的固定法を学ぶ。				
到達目標	怪我を想定し、症状・程度に応じた固定法(包帯やテーピング等)を選別・実践できるようになる。				
テキスト	包帯固定学 改訂第2版(南江堂)				
参考文献					
評価基準	実技評価試験				
履修上の注意	出席率4／5以上				
備考	配布した包帯を必ず持参。白衣着用				

講義計画			成果確認
1	講義内容	固定法を実施する際の問診・触診・視診の注意点①	注意点を理解する
	到達目標	問診ができる。	
2	講義内容	固定法を実施する際の問診・触診・視診の注意点②	注意点を理解する
	到達目標	触診、視診ができる。	
3	講義内容	合わせ包帯を用いたミッテルドルフ包帯固定法の実践①(上腕骨骨幹部骨折など)	包帯固定ができる
	到達目標	固定の目的を理解する。	
4	講義内容	合わせ包帯を用いたミッテルドルフ包帯固定法の実践②(上腕骨骨幹部骨折など)	包帯固定ができる
	到達目標	正しく固定ができる	
5	講義内容	合わせ包帯を用いたミッテルドルフ包帯固定法の実践③(上腕骨骨幹部骨折など)	包帯固定ができる
	到達目標	正しく固定ができる	
6	講義内容	キャストライトを用いたギプス固定の実践①(上腕骨外科頸骨折など)	キャストライトの性質を理解する。
	到達目標	正しく固定ができる	
7	講義内容	キャストライトを用いたギプス固定の実践②(上腕骨外科頸骨折など)	キャストライトの性質を理解する。
	到達目標	正しく固定ができる	
8	講義内容	キャストライトを用いたギプス固定の実践③(上腕骨外科頸骨折など)	キャストライトの性質を理解する。
	到達目標	正しく固定ができる	
9	講義内容	クラーメル副子を用いた膝関節部の固定①(膝前十字靱帯損傷)	クラーメルの形成が正しくできる
	到達目標	正しい肢位で固定ができる	
10	講義内容	クラーメル副子を用いた膝関節部の固定②(膝半月板損傷、テーピング固定含む)	クラーメルの形成が正しくできる
	到達目標	正しい肢位で固定ができる	
11	講義内容	クラーメル副子を用いた足関節部の固定①(外側靱帯損傷)	クラーメルの形成が正しくできる
	到達目標	正しい肢位で固定ができる	
12	講義内容	クラーメル副子を用いた足関節部の固定②(外側靱帯損傷、包帯とテーピング両方固定)	クラーメルの形成が正しくできる
	到達目標	正しい肢位で固定ができる	
13	講義内容	アルフェンスを用いた手部、指部の固定①(母指CM関節)	アルフェンスの形成が正しくできる
	到達目標	正しい固定肢位で固定できる	
14	講義内容	アルフェンスを用いた手部、指部の固定②(マレットフィンガーなど)	アルフェンスの形成が正しくできる
	到達目標	正しい固定肢位で固定できる	
15	講義内容	これまでの副子固定を使った復習	正しく巻ける
	到達目標	正しい肢位で固定できる。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅳ			講師名		西 正人		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	実技	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	上肢の骨折・脱臼の理論を復習しながら、骨折や脱臼の整復実技や固定実技を行う。							
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように育てる。							
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編							
参考文献								
評価基準	評価実技試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	鎖骨骨折の診察及び整復法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	鎖骨骨折の整復法を習得する。	
2	講義内容	鎖骨骨折の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	鎖骨骨折の固定法を習得する。	
3	講義内容	肩鎖関節脱臼の診察及び整復法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肩鎖関節脱臼の整復法を習得する。	
4	講義内容	肩鎖関節上方脱臼の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肩鎖関節上方脱臼の固定法を習得する。	
5	講義内容	肩関節脱臼の診察及び整復法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肩関節脱臼の整復法を習得する。	
6	講義内容	肩関節前方脱臼の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肩関節前方脱臼の固定法を習得する。	
7	講義内容	上腕骨外科頸骨折の診察及び整復法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折の整復法を習得する。	
8	講義内容	上腕骨骨幹部骨折の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	上腕骨骨幹部骨折の固定法を習得する。	
9	講義内容	肘関節脱臼の診察及び整復法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肘関節脱臼の整復法を習得する。	
10	講義内容	肘関節後方脱臼の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肘関節後方脱臼の固定法を習得する。	
11	講義内容	コーレス骨折の診察及び整復法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	コーレス骨折の整復法を習得する。	
12	講義内容	コーレス骨折の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	コーレス骨折の固定法を習得する。	
13	講義内容	肘内障の診察及び整復法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肘内障の整復法を習得する。	
14	講義内容	第5指中手骨頸部骨折の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	第5指中手骨頸部骨折の固定法を習得する。	
15	講義内容	第2指PIP関節背側脱臼の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	第2指PIP関節背側脱臼の固定法を習得する。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅴ			講師名		西 正人		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	実技	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	上肢、下肢の軟部組織損傷の理論を復習しながら、検査法や固定実技を行う。							
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように育てる。							
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編							
参考文献								
評価基準	評価実技試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	肋骨骨折の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肋骨骨折の固定法を習得する。	
2	講義内容	下腿骨骨幹部骨折の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	下腿骨骨幹部骨折の固定法を習得する。	
3	講義内容	肩胛板損傷の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	肩胛板損傷の検査法を習得する。	
4	講義内容	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	上腕二頭筋長頭腱損傷の検査法を習得する。	
5	講義内容	ハムストリングス損傷(肉ばなれ)の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	ハムストリングス損傷(肉ばなれ)の検査法を習得する。	
6	講義内容	大腿四頭筋打撲の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	大腿四頭筋打撲の検査法を習得する。	
7	講義内容	膝関節側副靱帯損傷の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	膝関節側副靱帯損傷の検査法を習得する。	
8	講義内容	膝関節内側側副靱帯損傷(Xサポートテープ固定)の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	膝関節内側側副靱帯損傷(Xサポートテープ)の固定法を習得する。	
9	講義内容	膝関節十字靱帯損傷の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	膝関節十字靱帯損傷の検査法を習得する。	
10	講義内容	膝関節半月板損傷の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	膝関節半月板損傷の検査法を習得する。	
11	講義内容	下腿三頭筋損傷(肉ばなれ)の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	下腿三頭筋損傷(肉ばなれ)の検査法を習得する。	
12	講義内容	アキレス腱断裂の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	アキレス腱断裂の固定法を習得する。	
13	講義内容	足関節外側靱帯損傷の診察及び検査法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	足関節外側靱帯損傷の検査法を習得する。	
14	講義内容	足関節外側靱帯損傷(局所副子固定)の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	足関節外側靱帯損傷(局所副子固定)の固定法を習得する。	
15	講義内容	足関節外側靱帯損傷(テーピング固定)の固定法	授業最後に試験形式の実技を行い、理解度を確認する。
	到達目標	足関節外側靱帯損傷(テーピング固定)の固定法を習得する。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅵ			講師名		青木 孝至		
				実務経験		○		
実務内容	鍼灸院にて柔道整復師、鍼灸師として臨床							
講義形態	実技	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	上肢。下肢の軟部組織損傷の理論を復習しながら、検査法や固定実技を行う							
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできる							
テキスト	柔道整復学理論編・実技編							
参考文献								
評価基準	評価試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	顎関節脱臼の診察および整復法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する	
2	講義内容	顎関節脱臼の固定法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	固定材料、方法を理解する	
3	講義内容	上腕骨顆上骨折の診察および整復法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する	
4	講義内容	上腕骨顆上骨折の固定法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	固定材料、方法を理解する	
5	講義内容	肘頭骨折の診察および整復法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する	
6	講義内容	肘頭骨折の固定法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	固定材料、方法を理解する	
7	講義内容	橈骨・尺骨両骨骨幹部骨折の診察および整復法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する	
8	講義内容	橈骨・尺骨両骨骨幹部骨折の固定法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	固定材料、方法を理解する	
9	講義内容	第1指MP関節脱臼の診察および整復法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する	
10	講義内容	第1指MP関節脱臼の固定法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	固定材料、方法を理解する	
11	講義内容	マレットフィンガーの診察および整復法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する	
12	講義内容	マレットフィンガーの固定法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	固定材料、方法を理解する	
13	講義内容	中足骨骨折の診察および整復法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する	
14	講義内容	ごぜ	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	固定材料、方法を理解する	
15	講義内容	膝蓋骨脱臼の診察および整復法、固定法	班ごとに互いの実技を評価する
	到達目標	診察・整復の手順を理解する 固定材料、方法を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅶ			講師名		青木 孝至		
				実務経験		○		
実務内容	鍼灸院にて柔道整復師、鍼灸師として臨床							
講義形態	実習	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	骨折・脱臼における整復術・固定術の機能的な知識と技術の個以上と、後療時の構成運動について理解する							
到達目標	成り立ち・意味・使用材料など基礎となるすべてを知ることができ、深く理解し会得する 様々な整復法、固定法に触れる							
テキスト	柔道整復理論編 改訂第7版(南江堂) 柔道整復実技編 改訂第2版(南江堂) 運動学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)							
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系 第3版(医学書院) 解剖からアプローチするからだの機能と運動療法上肢・体幹編 下肢編 (MEDICALVIEW)							
評価基準	評価試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	運動科学における関節内運動学 I	終了時に質疑応答
	到達目標	関節内運動学を理解する	
2	講義内容	運動科学における関節内運動学 II	終了時に質疑応答
	到達目標	関節内運動学を理解する	
3	講義内容	関節の種類・構造・機能 I	終了時に質疑応答
	到達目標	関節をより深く理解する	
4	講義内容	関節の種類・構造・機能 II	終了時に質疑応答
	到達目標	関節をより深く理解する	
5	講義内容	関節の種類・構造・機能 III	終了時に質疑応答
	到達目標	関節をより深く理解する	
6	講義内容	上肢(機能的整復・固定)実技 I	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
7	講義内容	上肢(機能的整復・固定)実技 II	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
8	講義内容	上肢(機能的後療) 実技	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
9	講義内容	体幹(機能的整復・固定) 実技 I	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
10	講義内容	体幹(機能的整復・固定) 実技 II	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
11	講義内容	体幹(機能的後療) 実技	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
12	講義内容	下肢(機能的整復・固定) 実技 I	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
13	講義内容	下肢(機能的整復・固定) 実技 II	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
14	講義内容	下肢(機能的後療) 実技	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	
15	講義内容	総合復習	終了時に質疑応答
	到達目標	様々な整復法に触れる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復総合演習Ⅱ			講師名		青木 孝至		
				実務経験		○		
実務内容	鍼灸院にて柔道整復師、鍼灸院として臨床							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	高齢者特有の疾病や症状、認知症の理解など高齢者介護に必要な知識を身につけ、新しい知能をベースに本来の柔道整復師の技術に適用する							
到達目標	機能訓練指導員として、介護福祉の現場において、介護予防や自立支援に関わることができる知識を身につける							
テキスト	柔道整復師と機能訓練 機能訓練指導員養成テキスト(南江堂)							
参考文献								
評価基準	評価試験							
履修上の注意								
備考	各単元の終了ごと、小テストを実施。 暗記用の資料を配布。							

講義計画			成果確認
1	講義内容	柔道整復師と介護保険	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	介護保険の目的と、柔道整復師の職務について理解する	
2	講義内容	発達と老化の理解1 発達の基礎的理解と心と体の変化について理解する	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標		
3	講義内容	発達と老化の理解2	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	高齢者にみられる疾患、高齢者3大生活習慣病について理解する	
4	講義内容	認知症の理科1	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	認知症の定義について理解する	
5	講義内容	認知症の理科2	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	認知症の簡易検査、予防について理解する	
6	講義内容	介護保険制度1	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	要介護の認定について理解する	
7	講義内容	介護保険制度2	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	介護給付やサービスについて理解する	
8	講義内容	介護の過程	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	情報収集、課題分析について理解する	
9	講義内容	高齢者介護とICF／介護予防と生活機能の向上	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	ICFを理解する 健康寿命について理解する	
10	講義内容	介護予防・日常生活支援総合事業／ロコモティブシンドローム	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	介護予防支援サービス事業について理解する	
11	講義内容	高齢者自立支援の理解1	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	ADLの改善、介助について理解する	
12	講義内容	高齢者自立支援の理解2	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	ADLの改善、介助について理解する	
13	講義内容	機能訓練指導員と機能訓練1	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	柔道整復師と機能訓練指導員の活動を理解する	
14	講義内容	機能訓練指導員と機能訓練2	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	機能訓練評価について理解する	
15	講義内容	機能訓練で提供する運動と要点	授業終了後の質疑応答にて確認
	到達目標	危機管理、リスクマネジメントを理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復実技研究Ⅰ			講師名		桃井 俊明		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	実技	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	身体の構造から考えて理論を理解することによって、患者さんを診る時に鑑別を行い、確定診断が行えるような医療人を目指し、臨床の場において対応できる力を養う。							
到達目標	実際にどのような診察、鑑別していくか、各種触診法、検査法を実施できるようにする。							
テキスト	柔道整復学実技編(南江堂)、一般臨床医学改訂第3版(医歯薬出版株式会社)							
参考文献	配布資料							
評価基準	筆記試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	感覚検査(表在感覚)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	検査方法が実践できる	
2	講義内容	感覚検査(深部感覚、複合感覚、平衡覚)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	検査方法が実践できる	
3	講義内容	反射検査(表在反射)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	検査方法が実践できる	
4	講義内容	反射検査(腱反射)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	検査方法が実践できる	
5	講義内容	頸部 整形外科テスト(ジャクソン、スパーリング)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	テスト法が実践できる	
6	講義内容	腰部 整形外科テスト(ケンプ、SLR、FNS、ブラガードテスト)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	テスト法が実践できる	
7	講義内容	骨盤・股関節部 整形外科テスト(ニュートン、パトリックテスト)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	テスト法が実践できる	
8	講義内容	胸郭部 整形外科テスト(アドソン、ライト、モーリー、アレンエデン、ルーステスト)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	テスト法が実践できる	
9	講義内容	腹部 検査法(マックバーネ、ムンロー、ランツ、ボアスほか)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	圧痛点が触診できる	
10	講義内容	模擬症例診察(頸部)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	模擬患者に対して、正しい手順で診察できる	
11	講義内容	模擬症例診察(腹部)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	模擬患者に対して、正しい手順で診察できる	
12	講義内容	模擬症例診察(腹部・腰部)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	模擬患者に対して、正しい手順で診察できる	
13	講義内容	模擬症例診察(胸部)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	模擬患者に対して、正しい手順で診察できる	
14	講義内容	模擬症例診察(大腿部)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	模擬患者に対して、正しい手順で診察できる	
15	講義内容	模擬症例診察(下腿部)	班ごとに授業内容の確認を話し合わせる
	到達目標	模擬患者に対して、正しい手順で診察できる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復実技研究Ⅱ			講師名		竹内 希美子		
				実務経験		○		
実務内容	クリニックにて柔道整復師として臨床							
講義形態	実技	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	臨床の場においてよく遭遇する好発疾患や頻出症例の原因や症状・治療法・後療法などを理論から検査法(テスト法)、また鑑別疾患との問診や症状確認を行う。							
到達目標	身体の構造から考えて理論を理解することによって、患者さんを診る時に鑑別行い確定診断がおこなえるような医療人を目指し、臨床の場において対応できる力を養う。							
テキスト	柔道整復学理論編・実技編(南江堂)、整形外科学							
参考文献	随時、資料を配布							
評価基準	筆記試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	頸椎疾患(寝違え)	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
2	講義内容	頸椎疾患(むちうち損傷)	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
3	講義内容	頸椎疾患(外傷性腕神経損傷)	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
4	講義内容	頸椎疾患(変形性頸椎症)	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
5	講義内容	頸椎疾患(頸椎後縦靱帯骨化症)	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
6	講義内容	手関節部の疾患	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
7	講義内容	指・手指の疾患	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
8	講義内容	肩関節部の疾患1	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
9	講義内容	肩関節部の疾患2	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
10	講義内容	肘関節部の疾患	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
11	講義内容	股関節部の疾患	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
12	講義内容	膝関節部の疾患1	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
13	講義内容	膝関節部の疾患2	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
14	講義内容	下肢部の浮腫	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	
15	講義内容	下肢部の疾患	授業終了前の質疑応答
	到達目標	発生機序、症状、鑑別等、診察の手順を正しく理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	3	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復実技研究Ⅲ			講師名		福田 学		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院にて柔道整復師として臨床							
講義形態	実技	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	柔道整復師の行う業務のなかでも、特に後療法の実技修得を目的とする。							
到達目標	後療法において必要な知識や技術を習得し、自ら実践のみならず他者への指導ができる。							
テキスト	柔道整復学理論編・実技編（南江堂）							
参考文献	その都度、プリントを配布							
評価基準	実技評価							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	後療法概論(固定)	グループでのフィードバック
	到達目標	今万で習得した固定法を素早く的確に行える	
2	講義内容	後療法概論(物理療法)	グループでのフィードバック
	到達目標	機械器具の操作、適応、禁忌が即座に判断できる	
3	講義内容	後療法概論(手技療法)	グループでのフィードバック
	到達目標	基本の手技の適応、禁忌を理解している	
4	講義内容	後療法概論(運動療法)	グループでのフィードバック
	到達目標	運動療法の種類、適応、禁忌が理解できている	
5	講義内容	後療法実技(手技療法)	グループでのフィードバック
	到達目標	模擬患者相手に手技療法が行える	
6	講義内容	後療法実技(上肢の運動療法)	グループでのフィードバック
	到達目標	模擬患者相手に運動療法の実践、指導ができる	
7	講義内容	後療法実技(体幹の運動療法)	グループでのフィードバック
	到達目標	模擬患者相手に運動療法の実践、指導ができる	
8	講義内容	後療法実技(下肢の運動療法)	グループでのフィードバック
	到達目標	模擬患者相手に運動療法の実践、指導ができる	
9	講義内容	後療法実技(物理療法機器の取り扱い)	グループでのフィードバック
	到達目標	機器の取り扱い、操作方法が適切に行える	
10	講義内容	コアコンディショニング概論	グループでのフィードバック
	到達目標	コンディショニング理論を理解する	
11	講義内容	コアコンディショニング実技	グループでのフィードバック
	到達目標	模擬患者相手にコンディショニング指導が行える	
12	講義内容	後療法におけるストレッチ概論	グループでのフィードバック
	到達目標	ストレッチの理論を理解する	
13	講義内容	後療法におけるストレッチ実技	グループでのフィードバック
	到達目標	模擬患者相手にストレッチの指導が行える	
14	講義内容	ストレッチポール概論	グループでのフィードバック
	到達目標	ストレッチポールの効果、適応を理解する	
15	講義内容	ストレッチポール実技	グループでのフィードバック
	到達目標	模擬患者相手にストレッチポールの指導が行える	